

教材名	お母さんのせい求書	教科書	学研（教出・東書・光文・日文＝3年）	学年	4年
内容項目	家族愛・家庭生活の充実	父母・祖父母を敬愛し、家族みんなで協力しあって楽しい家庭を作ること。			

内容項目のとらえ方（子どもの実態を踏まえ）

昨今の家庭環境は家族形態、暮らし方もさまざまで、個々の家庭の状況を一律に捉えることはできない。しかしどの家庭にも共通することは、衣食住に関する労働（家庭内の労働）が必要ということである。それらをだれがどう担っているかも多様であり、その現実の中で子どもたちは毎日生活をしている。「家族・家庭」をテーマにする中では、次のことについて「考え・議論」させていきたい。

- ・家庭内の労働はアンペイド（報酬をとらなわない）だが大切だということ。
- ・家庭内の労働は女性（母親）に偏っている傾向が強いこと。
- ・家庭生活を整えるために、家庭内の労働を家族で分担すること。

授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>1. 家庭内の仕事にはどんなものがあるのか考えてみる。</p> <p>ハウスキーパー時給 1029円 ビル清掃 992円（2011年）</p> <p>2. 最初から母親のせい求書を開いて読むところまでを聞く。わからない言葉などがあれば質問する。</p> <p>3. 家事の手伝いに、子どもがせい求書を書くということをどう思うか、考え意見を出す。</p> <p>4. お母さんの請求書の金額を、理由を考えて予想し、発表する。</p> <p>5. 正解を聞き、「0円」は妥当なのかどうか考え、意見を出す。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親の仕事だから0円でいい。 ・母親も外で働いているから0円はかわいそう。 ・家事は必要で大事。0円じゃ安すぎ。 ・母親も外で働いているから、みんなで家事はしている。 	<p>1. 子どもたちの家庭それぞれの独自性・多様性も尊重する雰囲気をつくる。</p> <p>参考：プロに依頼した場合の時給を知らせる</p> <p>2. 教科書は開かない。「せいきゅうしょって？」等、わからないところがあればわかりやすく解説する。</p> <p>3. いろいろな考え方があってよいことを伝える。</p> <p>4. お母さんの請求書を大きな紙に書き、黒板に貼る。ただし金額だけは隠しておく。</p> <p>いろいろな意見が出せる雰囲気をつくる。</p> <p>自分の「家の人」ならどうかという視点で予想するように伝える。</p> <p>5. 家庭内労働の大切さや、だれが担うのかを考えさせ議論させる。</p> <p>オープンエンドで終わる。「無償の愛」を刷り込み、これまでの子どもたちの議論を打ち消す恐れがあるため物語の最後は扱わずに終わる工夫をする。</p>
<p>多くの保護者（母親）も外で仕事をしており、なおかつ家庭の仕事もこなしている実態がある中、家庭内労働は保護者（母親）の無償の愛の表れというとらえ方だけではなく、家族みんなで分担しようという気づきができる議論を期待したい。</p>	

★この授業プランは、県教協 ジェンダー平等をめざす教育 家庭科グループ作成の授業プランを一部参考にしています。